

平成 20 年度 農業生物資源研究所・遺伝資源研究会  
— 植物遺伝資源探索調査の成果と将来展望 —

(背景と目的)

生物多様性条約にうたわれているように、多様な生物遺伝資源を保全し、持続的に利用することは、今後の私たちの生活に不可欠である。一方、農業の近代化とともに、栽培される作物種の多様性、とくに品種の多様性は急速に減少している。多様性が残っているとされる発展途上国においても、伝統文化や風土に培われてきた在来品種が急速に失われ、開発に伴う環境破壊や地球温暖化などの影響もあり多くの地域で作物の近縁野生種も絶滅に瀕している。植物遺伝資源研究は単に将来の育種素材を確保するだけではなく、植物と人間の長い歴史のある相互関係を解き明かし、その相互関係の中に存在する遺伝的多様性とそれを利用する知恵を未来の世代に活かしていかなければならない。

本研究会では、近年実施したパプア・ニューギニアおよび中国における植物遺伝資源調査・探索の成果の発表のほか、各作物分野のキュレーター等から関連分野の現状や将来展望についても報告いただき、現在実施中のラオスにおける探索を効率的・効果的に進めていくための方策等、今後の植物遺伝資源の現地調査・探索の方向性について議論する。

(日時) 平成 21 年 2 月 27 日 (金) 9:00~17:00

(場所) 農業生物資源研究所 (本部)  
〒305-8602 茨城県つくば市観音台 2-1-2  
ANNEX 2 階共用第 3・4 会議室

(次第)

- ・パプア・ニューギニアにおける共同調査 (2004-2006) の成果 (座長: 石井 卓朗)  
Duncan A. VAUGHAN・友岡憲彦 (農業生物資源研究所)・山中慎介 (JIRCAS)
- ・中国新疆ウイグル自治区における共同調査 (2004-2007) の成果 (座長: 長峰司)  
佐藤義彦・山口正己 (果樹研究所)・徐麟・叢花 (中国・新疆農業科学院)
- ・植物遺伝資源探索の展望 (座長: 神代隆)  
鴨川知弘 (サカタのタネ)・友岡憲彦 (農業生物資源研究所)  
キュレーター等 10 名
- ・総合討論

(世話人: 友岡憲彦・奥泉久人)  
029-838-7474・7458

<http://www.nias.affrc.go.jp/gr/h20/>